



「尚徳」6月号 第597号 令和4年6月29日

鳥取大学附属小学校 学校便り

<https://sho.fuzoku.tottori-u.ac.jp/>



題字「尚徳」は、住川英明 地域学部教授 (元校長)

## 家庭と学校のコミュニケーション

校長 山下博樹

鳥取で過ごす季節の中で、私が最も好きな春のさわやかな時期が終わり、例年より少し遅い梅雨入りとなりました。ここからは暑さと湿度の高さに、子供たちの熱中症にも気を付けながら夏休みまでの1か月を過ごすこととなります。今月は6年生の旅の学校も当初の予定通り、鳥根県の世界遺産石見銀山、出雲大社、国宝松江城などを2泊3日で訪問することができました。幸いにもいずれも観光客はまだ少なく、梅雨入り前のベスト・タイミングで実施できたことはラッキーでした。7月は4年生の森の学校も予定されています。無事に実施できることを祈るばかりです。

さて、コロナ禍のこの2年半は、直接の接触を極力減らすために保護者のみなさんの来校の機会がかなり制約されていました。そうした状況で臨時休業の長期化などに備えて、本校でも通信インフラの整備を進める一方、非常時対応の準備としてICT活用も推進してきました。家庭と学校のコミュニケーションの手段として、マチコミやメールの利用の割合が増えています。とりわけ、緊急連絡や朝の欠席連絡などでは重宝されているようです。これらはとても便利で多くの長所がありますが、小学生の子供をもつ親と学校のコミュニケーションとしては、これで十分とは言えません。子供の健やかで豊かな成長は、家庭と学校の連携が不可欠です。必要な情報の共有、相談事など、これまで通りに電話や個別面談などの機会を十分に活かして頂きたいと思います。さらに、日頃子供たちと接している教員からのメッセージとしての教育通信書も重要です。子供たちを褒めたり、励ましたりしながら、子供たちのやる気を最大化させるのが、教員と保護者の普遍的な役割です。いろいろなモノが便利になっても、普遍的に大切なことを見失わない学校でありたいと思っています。引き続き、ご支援・ご協力の程、どうぞ宜しくお願いいたします。

### 校舎周りが整備され、すっきりしました

6月25日(土)は、懇話会執行部、生活安全部の皆様の準備の下、各学年1組の児童とその保護者の方を中心として尚徳クリーン活動が行われました。暑い中にもかかわらずたくさんの児童と保護者の方に参加していただき、草刈りや草取り、伐採した木の枝の処分などを行っていただきました。そのおかげで、校舎の周りが見違えるほどすっきりしました。

また、この日は「附属小学校わくわく研究所(旧おやじの会)」のみなさんも活動に参加してくださいました。このような附属小学校の応援団の方に支えられて子供たちのよりよい学習環境を整えてくださっていることをとてもありがたく思います。

今年度2回目の尚徳クリーン活動は、10月に各学年2組の児童とその保護者の方による実施が予定されています。お世話になりますが、よろしくお願いいたします。



## 学校の様子

### \*\*\* 児童会活動 \*\*\*

各委員会が学校運営に参画していく意識をもって取り組んでいる委員会。今回は、放送広報委員会・健康委員会を紹介します。



放送広報委員会では、時刻に合わせて毎日の放送を行っています。休憩の終わり、掃除の取り掛かりなど、放送によって全校児童が次の行動に移すので、時間に正確でなければなりません。委員の子供たちは、自覚をもって仕事をしています。



健康委員会では、水道水の水質検査、トイレトーパーの補充、ドアノブ等の消毒などの仕事を行い、全校児童の健康な学校生活の一翼を担っています。

## 学校の様子

5月下旬から6月は、各学年がいろいろな行事を行いました。その中の一部ですが、紹介します。



### 1年 附属幼稚園との交流

5月31日(火)に2組が、6月2日(木)に1組が附属幼稚園を訪れ、年長児との交流を行いました。この日は附属幼稚園の園児とルールを守りながら仲良く活動しました。そんな中で、幼稚園児が楽しめるようにお兄さん、お姉さんとして声を掛けたり面倒をみたりする姿が見られました。

この交流は、年間4回行う予定で、7月には幼稚園児を小学校にお迎えして交流します。

### 3年 校外学習-湖山池の学習-

6月16日(木)に、ちいき・みらいの学習で湖山池情報センターに行き、職員の方に湖山池についての話を聞いたり、青島を歩いて様子を観察したりして学習しました。職員の方の話では、湖山池があったところはもともと海であったことや、湖山池に棲む生き物などを教えていただき、子供たちは興味深く聞いていました。



### 6年 旅の学校

山陰の世界遺産、史跡を訪れることでわが国の歴史について理解を深めること、山陰を知り大切にしようという心を養うこと、集団での生活を行うことで集団への所属感を深めることを目的に、6年生が6月8日(水)～10日(金)に「旅の学校」に行きました。島根県の出雲大社、石見銀山、松江城などに行き、古の人々の営みに思いを馳せたり、また友達と団体で旅行をする楽しさを感じたりしながら2泊3日の行程を満喫しました。



本校は今年度「個別最適な学びが、未来の知への探究心を高める」という研究主題のもと、研究を進めていきます。

本校においては昨年度から学びの『しやすさ』をキーワードにGIGAスクール構想の実現に向け取り組みを続けてきました。すでに学校内では、授業の中でタブレット端末は当たり前学習ツールの1つとして子供たちに認識されています。そこで今年度は、昨年度からの流れをさらに発展させた形で、研究を新たなフェーズに進めていこうと考えています。教科・領域特有の見方・考え方を働かせる学びの中に、子供たち1人1人がタブレット端末などによって個別最適な学びを実現させていく授業を実践していきます。

今年度は特に個別最適な学びをキーワードにして、子供たちの知への探究心を高めていこうと考えています。子供たちは授業の中で1人1人に合った学び方で探究することに没頭し、たどり着いた『知』(知識)を1人1人多様な方法で表現することで学びを楽しみます。それにより将来にわたって知への探究心を高めていくことができるようになると思います。

本校は地域のモデル校として、すべての学校で実施できる授業を提案し、広く発信し続けています。本年度の研究では、多くの学校で実践できる各教科・領域における個別最適な学びを実現する授業の姿を明らかにしていくことをめざしていきます。

#### 研究の実際

本校では、基本的に毎週月曜日を「研究日」として、教職員がそれぞれ専門の教科・領域についてテーマを設定し研究を行っています。大学附属小学校という特色を生かして、鳥取大学の先生を中心に共同研究者という形で、協力して各教科・領域で専門的な研究を進めています。またテーマ別の研究の他にも、子供たちの指導に必要な研修を適宜行って指導力を高めています。

主に以下に挙げるような内容を計画的に進めています。

- ・校内授業研究会
- ・共同研究者との研究の打ち合わせ
- ・教科グループでの話し合い
- ・個人研究
- ・職員全体研修

## 令和4年度 研究教員紹介

研究教科 領域	研究教員	共同研究者	研究教科 領域	研究教員	共同研究者
国 語	竹内 由美 綱本 圭祐	小笠原 拓	音 楽	谷口 峻音	鈴木 慎一郎
社 会	尾崎 隆宏	小山 富見男	図 工	田中 雅子 堀 愛	中尾 泰斗
算 数	大杉 晃範 前田 明彦	溝口 達也	外国語	横山 由佳 青木 陽子	青山 聡
理 科	梅田 聡	泉 直志	プログラミング 教育	完田 八郎	小林 祐紀 (茨城大学教育学部)
生 活	西尾 牧子	溝口 達也			
	山本 紗弓	塩野谷 齊			

## 年度初め研究プレゼンテーション

(5月30日(月)・6月20日(月))

今年度の研究テーマや研究の計画について教職員1人1人がプレゼンテーションしました。目的・方法・検証について各教科・領域で1年間取り組んでいく研究の内容を聞き合い助言し合うことで、研究の質をさらに高めていきました。

## 研究発表大会1次案内について

本年度の研究発表大会は、**令和4年10月28日(金)**に開催いたします。1次案内(PDF)を本ホームページにアップしていますので、ご覧ください。

## 校内授業研究会

6月6日(月)に今年度初めてとなる理科(プログラミング教育)校内授業研究会を行いました。

授業後は、研究グループで個別最適な学びの具体的な子供たちの姿について意見交換をして、今後の研究授業の中で明確なイメージとして共有できるように話し合いを深めました。

### 《理科(プログラミング教育)授業の様子》

3年生の理科の学習でプログラミングアプリ Scratch を活用して生き物の特徴を整理する学習をしました。

学校内にいる動植物をタブレット端末で撮影して、1人1人が気に入った生き物のアニメーション作りをScratchで行いました。クラス全員で作成したアニメーションを共有して、視聴することで学校にいる虫や花の特徴を整理してまとめることをしていきました。

個別最適な学びに向けて、1人1人が多様な表現方法を身に付ける必要があります。

今回の授業では、特にプログラミングを使った表現方法を経験することで、言葉・文字・図だけでなく、デジタルを活用していくスキルを身に付けることをめざしました。またSTEAM教育<sup>\*</sup>の要素を入れて、観察した生き物の場所を紙の地図上に記号で表し、紙面上の番号とデジタルのアニメーションをリンクさせる『ものづくり』の活動も行いました。

今後も理科学習の実験・観察・表現の場面でプログラミングなどによるSTEAM教育を取り入れることで、子供たちの問題解決能力を高める実践を明らかにしていきたいと考えています。

<sup>\*</sup>STEAM教育: Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Mathematics (数学) を統合的に学習する「STEM教育」に、さらに Arts (教養/創造性) を統合し、各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育手法

(研究主任 完田 八郎)

